

次期5か年計画の整備の指標、期待される効果等の検討イメージ(案)

赤字：前回会議からの変更点

政策課題	施策の検討例	整備の指標の検討例	期待される効果の検討例	整備需要の把握や、優先順位付けなどに関わる検討事項
1. 安全・安心な教育研究環境の基盤の確保	○学生や研究者等が安全・安心な環境において教育研究ができるよう、施設・ライフラインの耐震対策、防災機能強化等の教育研究診療環境の整備を推進	【施設】 ○非構造部材の耐震対策(天井、窓、外壁等の落下防止等)の推進 ○その他の安全対策(ガス漏れ、漏電の防止等)の推進 ○経年30年以上の老朽施設に関し、今後10年間で解消(その後も、予防保全として計画的に長寿命化改修を実施) ・衛生対策(漏水、赤水、トイレ故障、空調故障の改善等)の推進 ・経年により陳腐化した機能の向上(実験のための電気容量の増設等) ・躯体の耐久性向上(ひび割れ、鉄筋コンクリートの中性化の対策等) 【基幹設備(ライフライン)】 ○概ね経年25年以上で更新されずに残されたライフラインについて、今後10年間で解消(その後も、計画的に更新を実施)	○安全・安心な環境の確保 ・災害発生後の適切な教育研究診療活動の早期再開、継続 ・被災時の学生・教職員等の安全確保 ・ライフライン等の事故・不具合の減少	○次期5か年計画期間中の整備需要と、老朽化の進展状況 ○整備の優先順位の検討(視点の例:安全性確保、衛生対策、耐久性向上) ※なお、長寿命化のための改修・維持管理の方策についても検討する(耐用年数や改修サイクルの考え方、老朽改善整備(改修・改築)に関して中長期的に要する費用の試算等を含む)
2. サステナブル・キャンパスの形成等	○地球温暖化対策などの社会のモデルとして先導的な役割を果たす施設整備を推進 ○施設運営の適正化に資する整備 ○地域・社会との共生を図る施設整備を推進	【サステナブル・キャンパスの形成】 ○国立大学等のCO2排出量を削減するための省エネ改修等の推進 ○次世代の社会のモデルとなることを目指すキャンパス整備の推進 ・最先端の地球環境保全の技術を社会と一体になって実践する場としてのキャンパスの整備の推進 ・環境教育の場としてキャンパスの整備の推進 ○施設運営の適正化に資する整備の推進 ※国立大学等に相応しい施設の省エネ改修、費用対効果等を分析した上で検討 【地域・社会との連携拠点の形成】 ○地域の廃校施設、民間施設等の借用等の増加 ○地方公共団体、NPO等との協働によりキャンパスの景観を形成する整備の増加	○地球温暖化対策などのモデルとしての先導的な役割、社会貢献 ・国立大学等のCO2排出量の削減 ・キャンパスを活用した地球温暖化対策の新たな取組の増加 ・地球環境に対する意識の高い人材の増加 ○施設運営の適正化 ・維持管理費、光熱水費の削減 ○大学と地域・社会との連携の強化 ・大学と地域との組織的な連携活動の増加	○優先順位の検討(例:CO2排出削減量の削減目標を立てて取り組んでいるなど、地球温暖化対策に積極的な大学等を優先する)
3. 国立大学等の機能強化への対応				
(1) 国立大学等の機能強化を活性化させる施設整備	教育振興基本計画や国立大学改革プラン、科学技術イノベーション総合戦略等を踏まえ、以下のような施設整備を推進 ○個々の大学の特性や強みを生かしつつ、キャンパスを創造的に再生し、国際競争力向上にも資する施設整備 ○グローバルに活躍する人材や、グローバルな視点を持って地域社会の活性化を担う人材の育成に向けた拠点となる施設整備 ○イノベーションの創出、イノベーションの担い手である人材の育成に向けた拠点となる施設整備 ○世界水準の教育研究拠点となる施設整備 ○十分な質を伴った学修時間を欧米並みの水準にすることなど、大学教育の質的転換のための学修支援環境整備	【キャンパス全体での機能の充実】 ○留学生宿舎の戸数の増加、混住型宿舎の割合の増加 ○全学生が授業時間外に利用できる学修スペースの増加 【個々の施設機能の充実】 膨大な既存施設について、最大限有効活用を図りつつ、以下のように施設機能を充実 ○研究者の異分野交流を推進するスペースを持つ施設の増加(パブリック交流スペース、オープンラボなど) ○各大学等が自らの戦略上重要な研究プロジェクトや教育研究組織等のスペースを機動的に確保するため、流動性のある全学共用のスペースの増加(全学共用の総合教育研究棟など) ○先端的な教育研究拠点について、十分な広さのスペースの確保 ○若手研究者の自立した研究に必要な研究スペースの増加 ○学生の能動的な活動を取り入れた授業や、ICTを活用した双方向の授業展開のための授業スペースの増加 ○「見る」「見られる」空間にし、ICTを活用したラーニングコモンズの増加 ○学生や研究者等の知的交流を促進する外部パブリックスペースの増加 ○大学間における機能連携に基づき、共同利用等を行う施設の増加 ※海外の先進的な大学施設整備の取組等も踏まえ、国立大学等が目指すべき教育研究環境に係る整備の指標を検討	○個々の大学の特性や強みを生かしつつ、国立大学等の国際競争力を向上 ○グローバルに活躍する人材や、グローバルな視点を持って地域社会の活性化を担う人材の育成等 ・優秀な留学生の受入れ人数の増加 ・海外の優秀な研究者の招聘、海外大学の研究ユニット誘致の増加 ・日本人学生の意識の変化 ・日本人学生の語学力の向上 ○イノベーションの創出、イノベーションの担い手である人材の育成 ・研究者の異分野交流・融合研究の促進 ・イノベーションの創出に向けた取組の増加 ・異分野の学生による授業等、イノベーション人材育成の取組の増加 ・若手研究者中心の研究活動の増加 ・民間企業や他大学との共同研究等の機会の増加 ○世界水準の教育研究拠点の形成 ・世界水準の教育研究拠点数の増加 ○学生が主体的に学び考える能動的学修の推進 ・アクティブラーニングの実施の促進(授業及び時間外学修) ・学生の学修意欲の向上 ・学修時間を欧米並みの水準に向上 ・全学生が授業時間外に十分な質の学修をできる環境(座席数)を確保 ・図書館等の利用率の向上	○次期5か年計画期間中の整備需要の把握 ○優先順位の検討(優先する例) ・機能強化の方向性等を踏まえ、キャンパスマスタープランの基本方針等で重点課題を明確化していること ・施設の運用についても体制を整備していること ・機能強化のための施設・スペース等の資源再配分の取組を実施していること
(2) 教育研究の活性化を引き起こす老朽施設のリノベーション	○大学の教育研究成果を発信し、地域の活性化の拠点となる施設整備	○経年による施設機能の陳腐化の解消や、建物構造による制約等により教育研究の実施に支障のある老朽施設のリノベーションや、大学の戦略上必要な新たな用途へのコンバージョン(転用)の増加 ○特に必要性のある教育研究の活性化等に資する改築の増加	○大学の教育研究成果の発信、地域の活性化 ・地域との共同研究の増加 ・地域との交流機会の増加 ・社会人利用者の増加 ○その他、教育研究の活性化 ・利用者の満足度の向上	○次期5か年計画期間中の整備需要の把握 ○優先順位の検討 ○改築の判断基準の検討
4. 計画的な施設整備推進のための方策				
○安定的な整備を実施するための予算の確保に向け、老朽改善整備(改修・改築)に関して中長期的に要する費用の試算を行う ○施設マネジメントの取組について、今後、指標等を検討する				